

指導資料



鹿児島県総合教育センター

社会 第109号

- 中学校，特別支援学校対象 -

平成20年5月発行

知識の確実な定着と理解を深める

中学校社会科学学習指導の充実

中教審教育課程部会は，これまでの審議の概要（H19年10月）の中で，『『生きる力』の育成がますます重要であり，現在の子どものたちの課題への対応の視点から，基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が重要である。』と述べている。

また，本県では，「基礎・基本」定着度調査を実施しているが，その中学校社会科についての結果からも基礎・基本の確実な定着が，毎年課題として挙がっている。中でも知識・理解と，思考・判断の観点の通過率が低い。これは，知識が確実に定着していないために，それを活用し社会的事象について思考したり，判断したりする力も育っていないことが理由の一つとして考えられる。

こうした国の動向や県の調査結果の分析から，知識の確実な定着を図り，理解を深めることが，思考力や判断力などの育成を図る上で，重要であると考えられる。

そこで，本稿では，知識の確実な定着を図り，理解を深めるための学習指導の工夫改善について述べる。

1 知識の確実な定着を図り，理解を深める学習指導の工夫の視点

知識の確実な定着を図り，理解を深めさせるための工夫は様々あるが，今回は次の2点に焦点を当てて述べてみたい。

(1) 板書を構造化するための工夫

板書は，ノートに記録しておくことで授業を想起する良い資料になる。生徒がノートに記録した学習内容を見直し，理解を深め，知識の確実な定着を図ることができるように，板書の工夫を行いたい。

そのためには，板書を行う際，授業における目標や押さえておくべき基礎的・基本的事項を明らかにしながら，生徒の発言内容や学習内容の整理，関連について構造的に示すことが大切であると考えられる。

(2) 知識を段階的に定着させる学習の工夫

生徒一人一人にできる喜び，分かる喜びをもたせることで，意欲的に学習に取り組ませ，知識を確実に定着させたい。

そこで，学習を進めるに当たって，知識を確実に定着させるための段階的な目

標を設定したい。つまり、最初の目標が達成できれば次の目標に進み、最終的に到達目標まで達成できるような工夫を行う。このような工夫を通して、生徒は一つの目標を達成することによってできる喜び、分かる喜びを感じ、意欲的に学習に取り組むようになり、知識が確実に定着していくと考える。

2 具体的改善策

(1) 板書を構造化するための工夫

学習指導要領及び解説、教科書を基に、構造化された板書にするための工夫例について述べる。具体的には、次のような点を工夫して構造化を図りたい。

生徒が、今日の授業の目標を十分理解できるように、学習課題を黒板の中央の上に書く等の工夫を行う。

中心資料等を板書に位置付ける。

個々の生徒の発言内容や基礎的・基本的知識をキーワード化する。

(生徒が板書を書き写すのに時間がかかりすぎて、考える時間が足りなくならないように、板書の量を工夫する上でもキーワード化することが重要である。)

生徒の発言内容等のキーワードを「類似したもの」や「相対するもの」などに分類・整理する。

色チョークを使って、基礎的・基本的な知識が明確になるように工夫する。(色チョークの使い方等は、年度当初に生徒に知らせておく。)

社会的事象の関連や学習課題の追究、解決の流れが分かるように線や矢印を

効果的に使う。

次に、これらの視点を踏まえて構造化した板書の工夫例について述べる。

ア 基礎的・基本的な知識をキーワード化した板書の工夫例

図1は、「人権を守る権利にはどんなものがあるのか」を考える授業における板書の工夫例である。

構造化に当たっては、まず人権を守る権利をキーワード化する。次にそのキーワード化した権利を政治参加の面からと、人権が侵害された場合に補償を求めることができる権利の視点で、線等を使い、分かりやすく分類し、構造化を図る。

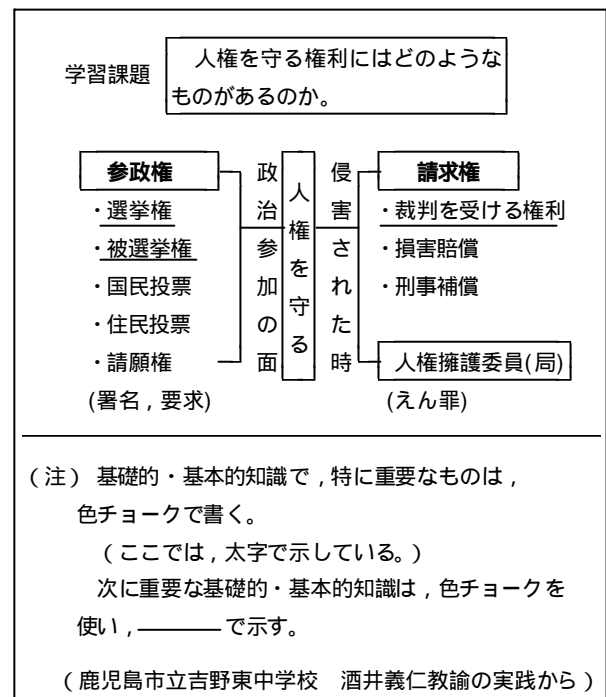


図1 基礎的な知識をキーワード化した板書の工夫例

イ 中心資料の比較を中心とした板書の工夫例

図2は、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が、農耕の広まりとともに変化していったことに気付

かせる授業における板書の工夫例である。

構造化に当たっては、まず中心資料（縄文時代と弥生時代の生活の様子）を黒板に提示する。次に提示した中心資料から読み取れることを時代ごとに生徒に発表させ、それをキーワード化してまとめ、時代の流れを矢印で示して構造化を図る。

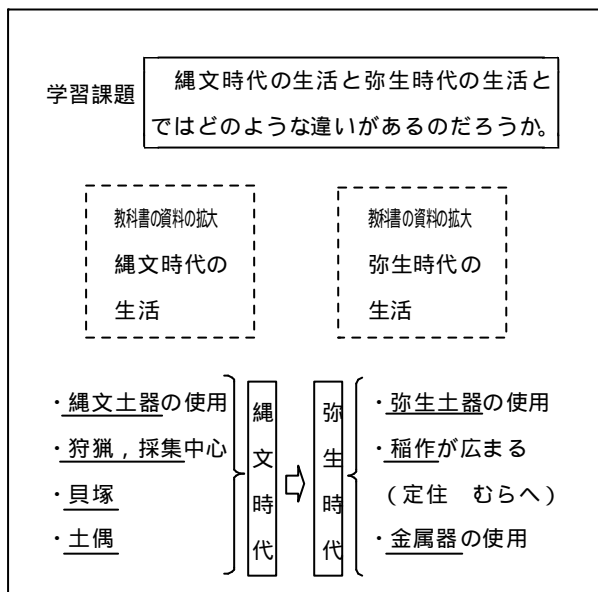


図2 中心資料の比較を中心とした板書の工夫例

ウ 社会的事象を関連付けた板書の工夫例

図3は、人々の生活は、自然環境や社会的条件の影響を受けていることに気付かせる授業における板書の工夫例である。

構造化に当たっては、まず、世界の伝統的な住居の資料を提示し、その資料から読み取れることを生徒に発表させ、キーワード化する。次に世界の気候図の資料を提示し、生徒の発表内容との関連を矢印で表す。続いて、現在の世界の住居と衣服の資料を提示し、その資料から読み取れることと、なぜそうなっているのか理由についても生徒に発表させ、キーワード化する。最後に、気候等の自然環境や社会的条件と生活との関連を矢印や線をつなぎながらまとめ、構

造化を図る。

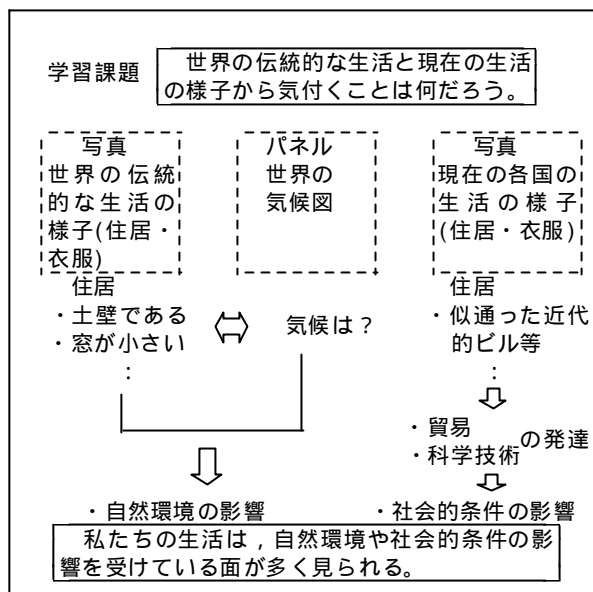


図3 社会的事象を関連付けた板書の工夫例

このような板書の構造化を図ることで、次のような効果があげられると考える。

基礎的・基本的事項をキーワード化することで、知識の確実な定着を図ることができる。

授業の流れが明らかになり、学習した内容について理解を深めることができる。

調べ学習や体験学習などで習得した知識を比較したり、つなげたり、まとめたりすることができる。

生徒の発言内容等をキーワード化したものを分類したり整理したりすることで、それぞれの意見の根拠や見方・考え方の違い、関連する他の事象との関係を明らかにすることができる。

板書を見ながら、学級全体で思考することで、お互いの見方や考え方を知り、自分の考えを深めながらまとめていくことができる。

こうした効果をあげられるよう、事前に板書計画を確実にを行い、授業に臨むこ

とが大切である。

(2) 知識を段階的に定着させる学習の工夫
例

知識を段階的に定着させるための学習指導の工夫として、ここでは、世界の国名と位置を知識として身に付ける学習を例に挙げて述べる。具体的には、まず教師が教科書等で良く出てくる国やニュース等で話題になっている国の中から覚える国を50か国選び、到達目標を設定する。次に、生徒に、その50か国の位置を白地図等を使って色塗りさせたり、どちらが早くその国を見付けられるか等ゲーム形式で国名や位置を地図帳で確認させたりするなどの学習を行い、知識の定着を図る。その際、生徒に自分の習熟の程度に応じて覚える国名と位置について、それぞれ目標設定させる。最後に、国名と位置を確実に理解しているか確認させるため、生徒の習熟の程度に応じたステップアップテストを行う(図4)。

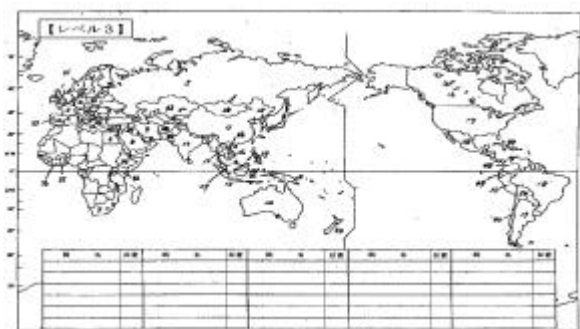


図4 ステップアップテスト例

生徒は、自分の習熟の程度に応じて、レベル1から5までのテストを選び、正しく理解しているかどうか確認を行い、確実に理解した場合、覚える国名と位置を10か国ずつ増やした次のレベルのテ

ストに進み、最終的には、世界の国名と位置を50か国覚えることを到達目標とする(図5)。

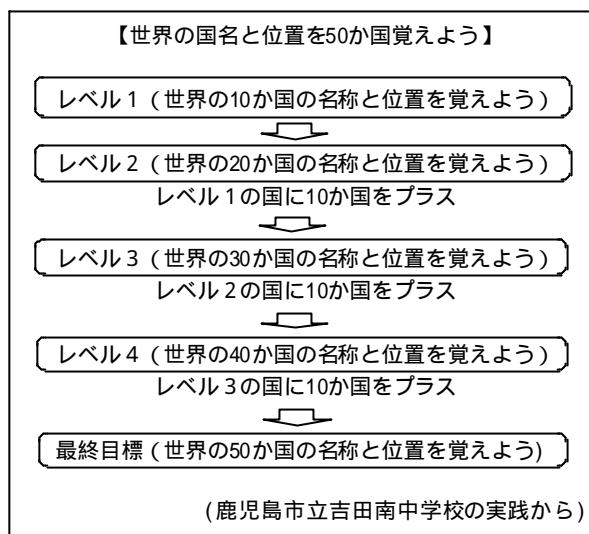


図5 ステップアップテストの指導過程

生徒は、一つの目標を達成することで、できる喜びを感じるようになる。その結果、学習意欲が高まり、最終的に50か国を覚えることができるようになる。このような学習を行うことで、知識の確実な定着が図れると考える。なお、こうした学習は、地図記号や都道府県名、歴史上の人物などを覚える場合にも活用できる。

知識を確実に定着させ、理解を深めるための具体策について述べてきた。これまで述べたように、日々の授業の中で行っている板書一つをとっても様々な工夫が考えられる。今回の具体例を一つの参考として、各学校で、知識を確実に定着させ、理解を深めさせるための学習指導の充実に向けて、更に研修を深め、生徒のもつ可能性を伸ばして欲しい。

【参考文献】

安野 功著『社会科授業力向上5つの戦略』2006 東洋館出版社

(教科教育研修課)

